

川上ダム通信

2012

2
月号

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>



環境学習会を開催

川上ダム建設所では、職員の環境に関する意識と知識の向上を図ることを目的に、平成23年12月19日（月）、川上ダム建設所ふれあいホールにて平成23年度環境学習会を開催しました。講師として三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護室中川主幹、中野主査をお招きし、「三重県の文化財保護～埋蔵文化財及び天然記念物を中心に～」と題してご講演いただきました。

最初に「伊賀地域の埋蔵文化財」のご講演では、川上ダム建設所が所在する三重県伊賀市阿保の歴史

・遺跡のご紹介がありました。遺跡の発掘から古代の人々の生活が偲ばれること、このような文化財は後世に引き継ぐべき貴重な財産であることについて、お話しをいただきました。

続いて、「三重県内の天然記念物の現状」及び「平成23年に国指定天然記念物として新たに指定された中村川ネコギギ生息地」などについて、ご講演いただきました。これまでネコギギ（ナマズ目・ギギ科の淡水魚）は地域を定めない天然記念物に指定されていましたが、当該流域は本種の生息環境が良好な状態で残されており、その保護を図る上で重要な生息地であることから、さらに生息地も天然記念物に指定されたことなど、三重県内の天然記念物に関する最近の動向についてご紹介いただきました。

また、国の特別天然記念物として指定されているオオサンショウウオに関しては、これまで三重県が保護対策として実施している人工巣穴に関するモニタリング結果と課題について、ご説明いただきました。

本環境学習会には、水資源機構職員・川上ダム建設所発注工事請負業者のみならず、近隣の関係行政機関である三重県伊賀建設事務所、伊賀市教育委員会、伊賀市青山支所の方々にもご出席いただきました。それらの方々からも、今回の環境学習会は、テーマも興味深いものであり、内容についてもよく理解できたとのことご意見を多数頂戴することができました。

最後になりましたが、講師を務めていただいた三重県教育委員会事務局の中川主幹、中野主査をはじめ、関係機関の皆様方に御礼申し上げます。



学習会の様子

【環境課長 大高英澄】

県道青山美杉線付替工事の状況

① 青美線トンネル工事

トンネル工事は、現在内部コンクリート作業を実施中であり、進捗率は約80%で2月下旬の完了を予定しています。また、並行作業でトンネル起点側の道路工事を行っています。この道路工事は、約2万m³の地山掘削作業で2月中旬の完了を予定しています。



内部コンクリート施工の様子



トンネル起点側地山掘削作業の様子

② 青美線貯水池横断橋工事



横断橋工事全景（下流から上流を望む）

貯水池横断橋工事は、現在P1橋脚が完了し、将来車が通る上部工の施工に取りかかっています。

P2橋脚は、1月27日現在10m/35mまで橋脚コンクリートが仕上がりました。



トンネル下流坑口より青山羽根方面を望む



P1橋脚上部より小川内方面を望む

これら2件の工事関係車両は、県道松阪青山線等を通行いたします。

地域の皆様には、引き続きご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。 【工事課 森岡浩然】

水と歴史に関するワークショップを共催

平成23年12月13日～14日、「持続可能な発展を図るため、如何に水と歴史から学ぶべきか」をテーマとした「水と歴史に関する国際ワークショップ」が、世界銀行東京開発ラーニングセンター（東京千代田区）で開催されました。このワークショップは、日本政府、国連「水と衛生に関する諮問委員会」、世界銀行東京事務所等が主催となっており、水資源機構も共催として携わったものです。世界各地から水に関する専門家、学識経験者、実務者など約80名の参加がありました。



ワークショップ会場の様子

ワークショップでは、共催者として水資源機構甲村理事長がご挨拶申し上げました。その後2日間にわたり、水と人々の生活とのかかわりや水を通じた持続可能な経済発展などについて熱心な議論が行われました。このワークショップ初日は、国連「水と衛生に関する諮問委員会」名誉総裁でいらっしゃる



熱心に聴講される皇太子殿下
(向かって右は甲村理事長)

皇太子殿下がご聴講になり、海外の研究者などによる講演や議論に熱心に耳を傾けておられました。また、皇太子殿下には世界銀行と水資源機構の共催により、世界銀行情報センターにおいて開催していた「愛知用水の50年」パネル展示もご覧いただきました。

なお、このワークショップには、機構の研修の一環として、川上ダム建設所の職員4名も参加しました。2日間という限られた時間ではありましたが、水に関する最先端の議論や研究に触れることができました。なお、本ワークショップについては、水資源機構本社HPでも公開しておりますので、是非ご覧下さい。

URL : <http://203.0.3.12/honsya/honsya/news/2011/12/news11121601.html>

【総務課 堀雅智】

安全運転講習会を受講しました

川上ダム職員は、1月11日（水）と1月12日（木）の2日間、津市にある三重県交通安全研修センターで安全運転講習を受講しました。

受講目的は、コンピューターを利用した屋内での事故体験シミュレーションや屋外での自動車実技研修と講話を通じて、日頃の交通安全への意識を高めることです。

自動車実技研修では、わだちを想定した道路の走行や、冬道を想定した滑りやすい路面でのブレーキ練習を行いました。スタッドレスタイヤやABS装置を搭載した車両であるにもかかわらず、冬道を想定した路面では、時速30キロでも思うように停止することができず、いかに冬場の運転には細心の注意が必要であるかを再認識しました。



屋内での受講風景

講師の先生から、「スタッドレスタイヤやABS装置を過信せず、安全運転への意識を常に持つことが大事」とのお話がありました。今後も、職員一同、安全運転に努めてまいります。【第二用地課 松高遵】

平成23年度水の調査隊の取り組み結果

「水の調査隊」は、これからの地域を担う周辺の小学生を対象に、ダム事業関連の工事現場やダム計画地周辺の環境を実際に見聞きすることにより、水、ダム及び水源地周辺の環境について、より理解を深めてもらうための取り組みであり、川上ダム建設所が平成20年度から実施しているものです。

今年度の取り組みとして、まず前年度中の平成23年2月22日に担当職員が伊賀市校長会に出向き、「水の調査隊」の参加募集を行いました。その結果、7月（12日、14日）には地元青山小学校4年生（97名）が、また、10月（27日）には長田小学校1～3年生（20名）が「水の調査隊」として応募され、現地学習会等を行いました。

これらのイベント終了後に、先生方へアンケートをお願いしたところ、以下のような回答と小学生の皆様からお手紙も頂きましたので、その一例を紹介します。

先生方からは、

「とても丁寧にわかりやすく説明していただきありがとうございました。」

「クイズ形式の問題は、特に興味をもっていました。」

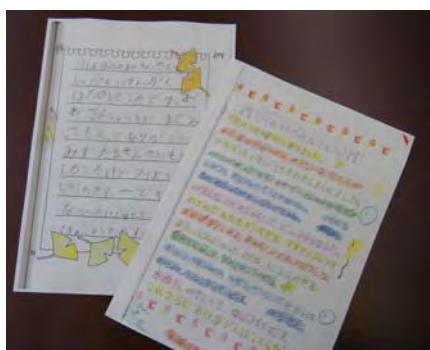
「事前学習のあと、きちんと教えてくれたのがありがたかった。」

「これまでの苦勞が伝わってきました。」

小学生の皆様からは、

「トンネルの中は暗かったけど楽しかったし、わかりやすくお話ししてくれてとても勉強になりました。」

「立ち入り禁止の場所を見学させてくれてありがとう。」



小学生からのお礼の言葉

「オオサンショウウオを間近で見て大きさにびっくりしました。」

「ダムを造ることは難しいことと、ダムを造るには時間がかかるということが本当にわかりました。」

「川上ダムが完成したらどれだけ大きいか楽しみです。早く完成してください。」

「学校へきてもらった時に、いろいろなことを教えてもらってよくわかりました。」

「また川上ダムへ見学に行きたいです。」

「ダムの大切なことを教えてくれてありがとうございました。」



頂いたお礼の手紙

お手紙ありがとう！



平成24年度も引き続き「水の調査隊」を実施していきますので、伊賀市内の小学校からのお申込みをお待ちしています。

【総務課 竹村尚康】

編集後記

一段と寒さが身にしみる季節となってまいりました。最近では朝晩に雪が降る日もあり、本格的な冬の到来を感じます。しかし、寒いからといって家の中に閉じこもっていると、体が怠けてしまいますので、外に出て、適度に運動も行いたいものです。

【広報誌発行事務局】

編集長 神矢（所長）
デスク 大友（総務課長）
" 足達（工務課長）
記者 堀（総務課）
松高（第二用地課）
森岡（工事課）



ISO14001: 2004
JQA-EM576m

☆☆☆皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。ハガキやメール等でどしどしお寄せください。☆☆☆

◇川上ダム建設所はISO14001を取得し、環境保全を推進しています。◇